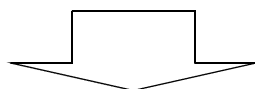


【中学校 数学】

<p>数学A (知識)</p>	<p>■「数学A知識」については、概ね定着が図られています。</p> <p>□「数と式」については、概ね定着が図られています。</p> <p>□「図形」については、概ね定着が図られています。</p> <p>□「数量関係」については、定着が図られています。</p>	<p>数学B (活用)</p>	<p>■「数学B活用」については、概ね定着が図られています。</p> <p>□「数と式」については、改善が必要です。</p> <p>□「図形」については、概ね定着が図られています。</p> <p>□「数量関係」については、概ね定着が図られています。</p>
<p>課 題</p>	<p>◇ 文字を用いた式を表すことや、文字に数を代入して式の値を求めることについては、大部分の生徒が理解できているが、次のことなどに課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・証明をよみ、用いられている合同条件を理解すること ・具体的な事象における一次関数の関係を式で表すこと ・樹形図や表などを利用して場合の数を求めること ・円柱の体積を求めること 	<p>課 題</p>	<p>◇ 必要な情報を適切に選択し処理することは、多くの生徒ができていますが、次のことなどに課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフに表れた変化する数量の特徴を数学的に表現すること ・数量の関係を数学的に表現して処理すること ・発展的に考えて証明すること ・与えられた証明をよみ、そのしくみを考えること ・数学的な結果を事象に即して解釈すること



学校における学習活動の改善方策例

- 小学校の学習を基に、立体を量感としてとらえ、体積を求める。
- 証明を考える時に、図に記号や印を付けたり、分かっているところまで説明したりして、筋道を立てて考える活動を繰り返し行う。
- 比例や反比例について、式からグラフを書いたり、グラフから式を求めたりする。
- 場合の数や確率について、実際の生活場面に即した実験を通して、体験的に理解したり、その考え方を適用できる生活場面を取り上げて考えたりする。
- 等式の変形について、なぜそうなるのかを考え、その理由を相互に説明し合う。
- 単元の導入に既習事項の確認を行い、新しい学習内容との関連や違いを考える。また、定着が図られていない学習内容については、放課後や長期休業で学び直す機会を活用する。

学校の学習を生かした家庭学習の参考例

- ※ 式を立てたり、計算をする前に、生活場面に当てはめて、図や表などに表しましょう。また、答えについて、その場面に当てはめて、適切かどうか見直しましょう。
- ※ 授業で分かったことを自分の言葉でノートにまとめてみましょう。
- ※ 表やグラフを書いて、どのように答えていけばよいか、見通しをもてるように工夫しましょう。
- ※ 間違えた問題は印を付けて、あとからもう一度解くようにしましょう。もう一度やってできた時は、間違えないためのポイントをノートにまとめてみましょう。

